

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（平成30年度中間）

1 支援の内容及び効果等（1）

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の提案内容等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の提案内容等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の提案内容等
- (4) 「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の提案内容等

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は役員改選があったことから運営委員の異動があり、会計事務など事務運営について地域差が大きくなっていることについて、適宜、「会計担当者情報交換会」や「地活協補助金研修会」を開催するなど、タイムリーな支援を行っており、地域との信頼関係も築くことができている。 ・地活協発足以降、運営委員の異動が相当数あり、改めて、一般区民も含めて地域活動協議会について理解が深まるように「地域活動ハンドブック」を作成しており（10月発行予定）、その活用による成果が期待される。 ・新たな担い手発掘の課題について、城東区社会福祉協議会内に昨年度新たに設置された「ボランティア・市民活動センター」と連携してマッチングを進めてきた結果、その成果が表れてきている。 ・地域課題の解決に向けた自律的なまちづくりへの支援として、昨年度に続き、今年10月に第2回目の「企業・NPO・学校・地域交流会」の開催を引き続き「防災」をテーマに進めており、新たな参加・参画が期待される。 ・地域ニーズに対して、企業やNPOとのマッチングを行なった結果、課題解決に向けて前進した例も出てきており、これまで当区では成果が上がってこなかった地活協の動きが生まれてきている。 ・「区独自の取組み」である自主財源の確保に向けたCB/SB実施支援は、今年度、区役所職員が各地域に出向いて「コミュニティ回収」の説明に回っていることに合わせて、まちづくりセンターも地域に対して情報提供を行なっている。そうした中、1地域で会計事務処理ソフトの独自開発が進行中で、ソフトの完成後は、他区へ販売する構想が生まれてきている。

2 支援の内容及び効果等 (2)

評価項目

(1)自由提案による地域支援の提案内容等

(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる提案内容等

(2-2)フォロー(バックアップ)体制等にかかる提案内容等

(3)区のマネジメントに対応した取組にかかる提案内容等

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐にわたる企画提案について、地域に足繁く通い、様式1-1「2 支援の内容及び効果等(1)」のとおり、精力的に取り組んでいる。 ・昨年度よりアドバイザー1名・支援員4名の体制を1名減員し、アドバイザー1名・支援員3名に見直したところであるが、地域要望により担当地域を決め、これまでどおり支援業務を行なっている点について評価する。 ・まちづくりセンターは、城東区社会福祉協議会内の「城東区ボランティア・市民活動センター」との連携を一層密にし、ボランティアの派遣が、地域活動の担い手、後継者候補としてつながっていくよう支援することを期待する。 ・CB/SBに関して、今福地域で独自に地域活動協議会会計ソフトを作成し、それを有償で提供する自主的な取り組みが進んでおり、こうした動きが出てきたことは、まちづくりセンターが各地域にCB/SBの実施を意識付けしてきた成果と考える。

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)の状況及び効果等(5つ以内)

評価項目

区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)にかかる提案内容等

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンター支援員の地域訪問を増やした結果、把握できた地域要望から「会計担当者情報交換会」や「地活協補助金研修会」に開催を、また「地域公共人材」の活用により8月に諏訪地域で「ボランティア受入講座」の開催や4月より(～9月まで)城東地域で「広報紙作成支援」の開催もしており、自律に向けた地域要望に対して的確な支援をしており評価できる。 ・城東区社会福祉協議会内に昨年度「城東区ボランティア・市民活動センター」が設置され、まちづくりセンターが新たな担い手

	<p>発掘の課題について、これまで連携してきた成果が表れてきており評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今福地域で開発中のオリジナル会計ソフトは、包括外部監査結果に対応し、事務負担を軽減するものとして期待されており、今年度中の完成、配付ができるよう支援を進めてもらいたい。 ・10月2日に開催予定の第2回「企業・NPO・学校・地域交流会」については、昨年度の開催では名刺交換会が行われ、NPOの地活協加入や町会加入というつながりが出来た。今年度の開催により、さらなる拡充が期待される。 ・「地域活動ハンドブック」の作成は、運営委員や町会役員などへの配布や、地域集会所をはじめ人が集まる場所に広く設置し、地活協の知名度を高めることにも貢献できるものとして期待する。 ・広報紙未発行の残る1地域への働きかけが不十分である。
--	--

4 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・包括外部監査指摘により、今年度から新様式となった各種報告書等の対応支援、また中間決算の推奨・指導等を適宜おこなっている。 ・「地域活動ハンドブック」の作成、「会計担当者情報交換会」や「地活協補助金研修会」、地域公共人材の活用による「ボランティア受入講座」の開催など、様々な地域要望に応じて多彩なメニューを設けて支援を行なっている。 ・「企業・NPO・学校・地域交流会」の開催は、会計支援に偏りがちな支援から地域課題への支援に幅を広げている点で評価する。 ・広報紙作成について、未発行の1地域に対して支援し、今年度中に達成されたい。 ・CB/SBについて、特に「コミュニティ回収」について地域の理解が進むよう支援されたい。 ・社会福祉協議会ならではの強みを発揮してもらいたい。 ・今期末に向けて「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」にある平成30年度「目標」を達成されたい。

(評価基準)

- S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。